

第3次葛飾区環境基本計画

みんなでつくる 人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか

～令和5年度進捗状況の報告について～

令和6年10月
葛飾区

第3次葛飾区環境基本計画の位置付けについて

本計画は、区の環境に対する考え方を明らかにするとともに、葛飾区基本構想に示された将来像「みんなでつくる 水と緑と人情が輝く 暮らしやすいまち・葛飾」を環境面から補完する位置付けにあります。環境に係る施策を中長期的な展望に立って、総合的・計画的に推進するための計画であり、各個別計画の策定や施策の実施に当たっての環境配慮の方向性を示すものです。

また、地球温暖化対策推進法に基づく「葛飾区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」、気候変動適応法に基づく「葛飾区気候変動適応計画」及び生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略である「生物多様性かつしか戦略」を包含する計画とします。

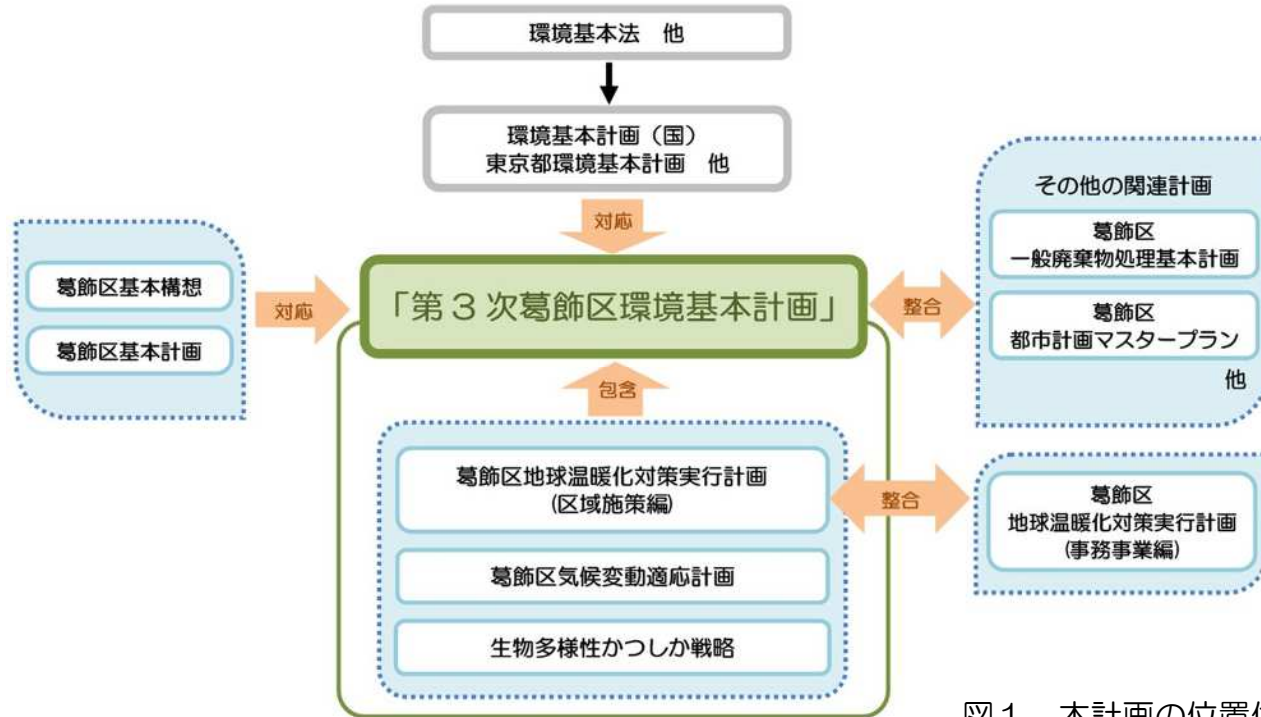


図1 本計画の位置付け

第3次葛飾区環境基本計画の目標について

本計画は、基本理念に基づいて将来的な区の在り方を示す望ましい将来像である「みんなで作る人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか」を実現する目標として、5つの基本目標を設定しました。

5つの目標は、相互に関わり合い、切り離すことができないものであり、いずれかの目標のみを優先させることなく、全ての目標の達成に向けて取り組むことが重要です。

全ての基本目標における施策や事業に対して真摯に取り組み、時には連携し同時解決を図ることで望ましい将来像の達成を目指します。

基本理念

私たちは、大気や水、ごみ、生きものなどの暮らしに身近な環境問題から、地球温暖化といった世界的な環境課題、大型台風の上陸や猛暑などの気候変動やウイルスによる感染症拡大といった、これまで経験したことのない新たな環境問題にも、オールかつしかで力を合わせて乗り越える必要があります。

私たちが将来にわたって安心して幸せな生活を送り、事業活動のさらなる充実を図っていくためには、社会経済活動やライフスタイル・ビジネススタイルを振り返りながら、区民・事業者・区の連携・協働によって、経済・社会・環境の3側面での統合的向上を図り、次世代へ継承する自然環境の恵み豊かな持続可能なまちをつくります。

望ましい将来像

「みんなで作る 人や自然にやさしく持続可能なまち かつしか」

5つの基本目標

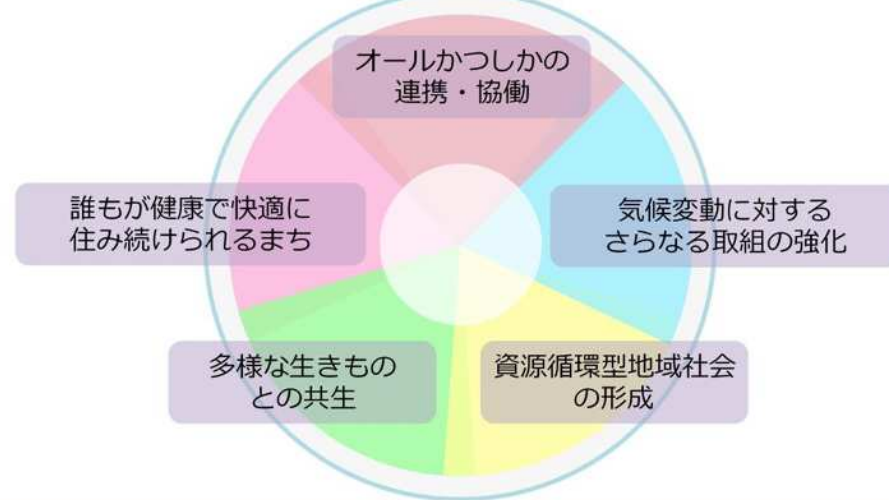
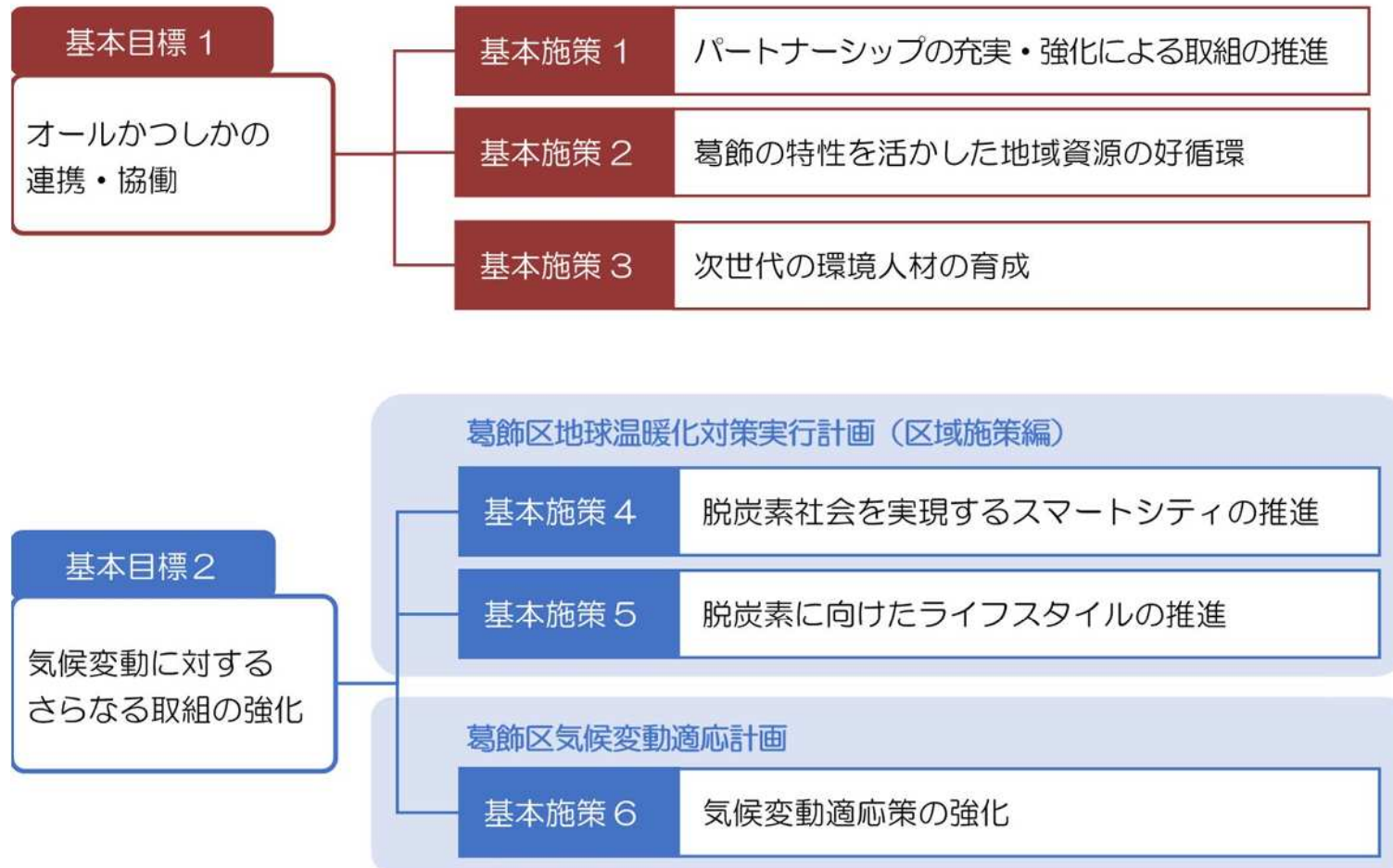
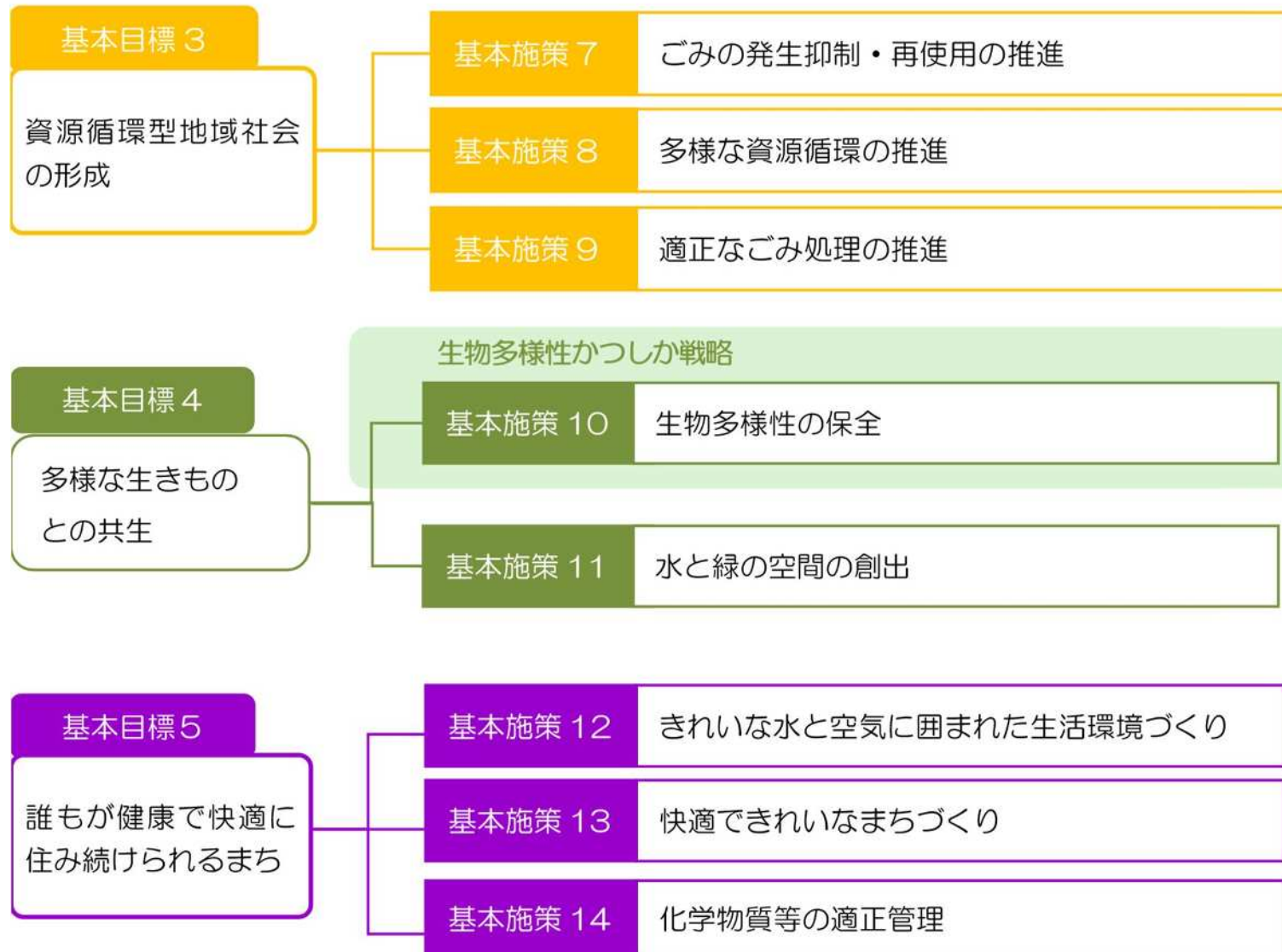


図2 基本理念・望ましい将来像・基本目標のイメージ

第3次葛飾区環境基本計画の体系について



第3次葛飾区環境基本計画の体系について



第3次葛飾区環境基本計画の進行管理について

本計画を実効性のあるものとするためには、施策の実施状況、関連する成果指標の推移などの点検を行い、その結果に基づき、改善をしていくPDCAのサイクルが必要です。

そこで、本計画の進捗管理に当たっては、気候変動、自然環境、都市緑化、資源循環に関連する学識経験者や環境に関する協議会をはじめとした区民団体、公募区民、区内の学生などで構成する環境審議会において、計画の進捗管理や見直しに関する事項、環境の保全に関する施策に関する事項等について審議し、次年度以降の取組につなげていきます。

今後も、継続的にPDCAサイクルを実施する中で、施策の進捗状況、国や都の計画策定等の動向、社会情勢の大きな変化等を踏まえ、適宜、目標及び施策の強化などの見直しを検討していきます。

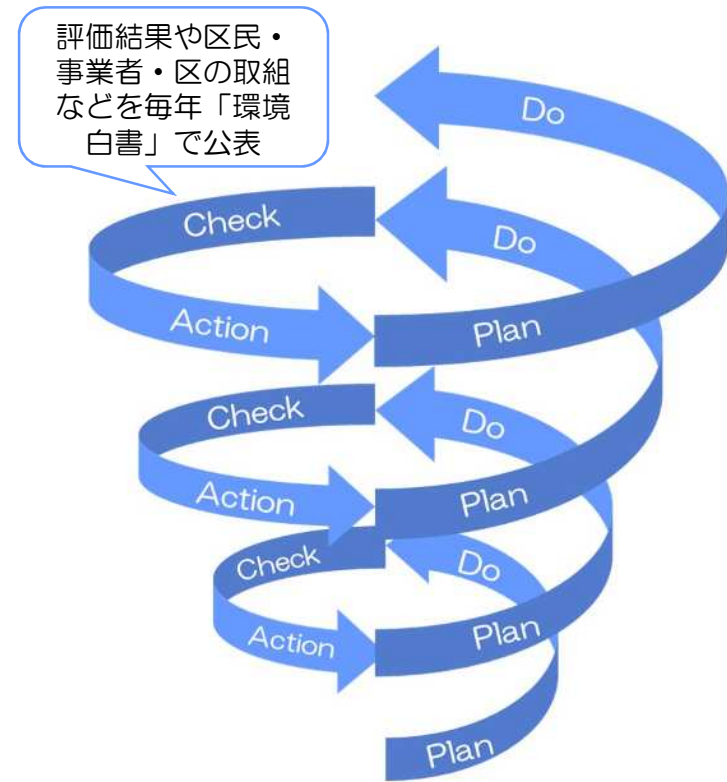


図3 PDCAサイクルのイメージ

目 次

基本目標1	オールかつしかの連携・協働	-----	1
	基本施策1	パートナーシップの充実・強化による取組の推進	
	基本施策2	葛飾の特性を活かした地域資源の好循環	
	基本施策3	次世代の環境人材の育成	
基本目標2	気候変動に対するさらなる取組の強化	-----	5
	基本施策4	脱炭素社会を実現するスマートシティの推進	
	基本施策5	脱炭素に向けたライフスタイルの推進	
	基本施策6	気候変動適応策の強化	
基本目標3	資源循環型地域社会の形成	-----	14
	基本施策7	ごみの発生抑制・再使用の推進	
	基本施策8	多様な資源循環の推進	
	基本施策9	適正なごみ処理の推進	
基本目標4	多様な生き物との共生	-----	17
	基本施策10	生物多様性の保全	
	基本施策11	水と緑の空間の創出	
基本目標5	誰もが健康で快適に暮らし続けられるまち	-----	20
	基本施策12	きれいな水と空気に囲まれた生活環境づくり	
	基本施策13	快適できれいなまちづくり	
	基本施策14	化学物質等の適正管理	

基本目標 1		オールかつしかの連携・協働			
基本施策1	パートナーシップの充実・強化による取組の推進				
基本施策2	葛飾の特性を活かした地域資源の好循環				
基本施策3	次世代の環境人材の育成				
施策の目標					
指標	目標設定時の値	令和4年度	令和5年度	目標値	
基本施策1 パートナーシップの充実・強化による取組の推進					
省エネを心がけている区民の割合 (%) ※1	83.2% (令和2年度)	85.9%	83.5%	95.2% (令和13年度)	
二酸化炭素吸収量 (t-CO2/年) ※2	842t-CO2 (令和元年度)	—	—	1,263t-CO2 50%増加 (令和13年度)	
花いっぱい活動に取り組む活動箇所数 (箇所)	150箇所 (令和2年度)	152箇所	159箇所	216箇所 (令和13年度)	
基本施策2 葛飾の特性を活かした地域資源の好循環					
「SDGs (持続可能な開発目標)」を知っている区民の割合 (%) ※3	39.4% (令和2年度)	—	56.9%	100% (令和13年度)	
基本施策3 次世代の環境人材の育成					
イベント来場者数 (人) ※4	9,400人 (令和元年度)	7,000人	8,600人	11,500人 (令和13年度)	

※1 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書

※2 「葛飾区緑被率・みどり率調査」報告書(10年に1度実施)の数値を基に区独自で推計

※3 葛飾区世論調査(3年に1度実施)

※4 イベント内訳: かつしか環境・緑化フェア、ごみ減量・清掃フェアかつしか

令和5年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 協働による花いっぱいのもちづくりの推進</p> <p>（1）かつしか花いっばいのもちづくり推進協議会や葛飾区緑化推進協力員会などとの取組</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 花いっばいのもちづくり推進協議会が会員相互や一般区民に向けたイベント「サロン・ド・花いち」を8月27日に開催しました。 花いっばいの花壇コンクールパネル展示・花いっばいでおもてなし展・ミニ園芸教室など 日比谷公園ガーデニングショー（会期：10/21～29）にテント出展しました。 花いっばいのもちづくりパネル展・フラワーメリーゴーランド、ミニメリー展示 都立芝公園開園150周年記念イベント「花と光のムーブメント」（会期：10/19～11/19）の会場装飾にフラワーメリーゴーランド、フラワーキャンバス、フラワードレスなどが採用されました。 <p>（2）花いっばいのもちづくりの担い手の拡大</p> <p>花いっばいのもちづくりの担い手の裾野を広げるため、個人や家庭を対象とした「まちかどマイガーデン」事業を実施しました。</p> <p>【実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏の工作教室「リユース部品で作る花の壁飾り」 中学生以下のお子さんと保護者を対象とした工作教室 「季節の花のコンテナガーデンづくり」 会場での受講とオンライン会議システムによる受講により参加機会を拡充しました。 <p>（3）全国みどりと花のフェアかつしかについて</p> <p>令和8年度の開催に向け基本計画の策定に着手しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園制度制定150周年記念事業と連携して芝公園で実施された「花と光のムーブメント 芝公園」にフラワーメリーゴーランドなどが採用された事は「花いっばいのもちづくり」の成果のひとつとなりました。 区民ボランティアによる地域での花壇活動は着実に拡大しています。さらに担い手の裾野を個人や家庭広げていきます。 花いっばいのもちづくり活動をより活性化するため、全国みどりと花のフェアかつしかを令和8年度に開催する予定です。

令和5年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ サステナブル・リカバリーによる区内産業の活性化 区内のSDGs活動を促進するため、SDGs達成に向け目標を決め宣言した事業者等に「SDGs宣言証」を発行し、取組内容を区ホームページ等で公表しました。 【実績】 宣言数：累計148件（令和6年8月20日現在）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 五泉市との児童交流事業については、葛飾区の児童による五泉市への訪問を行い、児童交流を深めています。訪問した児童たちにとって、自然体験や多くのことを学べるものになっており、今後も継続して児童交流事業を実施し、地域間連携を深めていきます。 • 「多摩の森活性化プロジェクト」においては令和6年から実施している森林整備事業、区民向け自然体験ツアーに加え、木材活用事業を実施し、持続可能な森林循環の広域的な取組を進めていきます。 • 新潟県五泉市および秋田県鹿角市においては、引き続き森林整備を通じてカーボン・オフセット事業を行い、地球温暖化対策に寄与していきます。また、新たに区民向け自然体験ツアーなどを検討し、森林を軸とした地域間交流に寄与していきます。
<p>◆ 地域外との連携による取組 （1）葛飾区と五泉市との児童交流事業 小学生などが五泉市を訪問し、五泉市の自然を体験することにより、都市型の葛飾の自然と対比し自然や生物多様性の素晴らしさや大切さを学んでもらうことを目的に実施しています。 【実施内容】 金町小学校3名、西小菅小学校3名の児童が、五泉市村松小学校を訪問し、サケの発表会、五泉市に関するクイズ、給食を一緒に食べる等によって児童交流を深めました。</p> <p>（2）森林整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> • 多摩地区の森林整備を進めるため、令和5年7月31日に都内11区市町村及び東京都と「森林環境譲与税の活用に係る都内連携に関する協定」を締結し「多摩の森活性化プロジェクト推進協議会」を設立しました。 • 新潟県五泉市、秋田県鹿角市の森林整備について、市有林の間伐等に協力し、五泉市約2.9ha、鹿角市約11.0haを整備しました。 	

令和5年度の主な取組結果						評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 環境学習の推進</p> <p>(1) 環境学習の実施 環境行動の普及・啓発を行うため、家庭や学校などに対し、環境学習の教室や講座を実施しました。 【主な環境学習事業】 再生可能エネルギーの環境学習教室、親子自然観察会、区民エコライフ学習講座、親子体験「LED電球でランプシェード作り」、夏休みリサイクル教室、出前講座、鳴く虫の女王「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会、かつしかっ子探検隊、3R推進パートナー養成講座など</p>						<p>・ 環境学習やイベントについては、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした年度もありましたが、令和5年度に5類感染症に移行した背景もあり、堅調に実績を伸ばすことができました。 今後も、環境行動の普及・啓発に取り組んでいきます。</p>
<p>◆ イベントの推進による普及啓発</p> <p>(1) かつしか環境・緑化フェアの開催</p>						
入場者数（人）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
テクノプラザ かつしか	4,700	中止	中止	3,600	4,500	
<p>(2) ごみ減量・清掃フェアかつしかの開催</p>						
入場者数（人）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
葛飾清掃工場	4,700	中止	中止	3,400	4,100	

基本目標2

気候変動に対するさらなる取組の強化

基本施策4	脱炭素社会を実現するスマートシティの推進
基本施策5	脱炭素に向けたライフスタイルの推進
基本施策6	気候変動適応策の強化

施策の目標

指標	目標設定時の値	令和4年度	令和5年度	目標値
基本施策4 脱炭素社会を実現するスマートシティの推進				
区内の温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ eq） （平成25年度からの削減率）	1,463千t-CO ₂ 12.1% （平成30年度）	1,388千t-CO ₂ 16.6% （令和2年度）	1,403千t-CO ₂ 15.7% （令和3年度）	832千t-CO ₂ 50% （令和12年度）
区内の再生可能エネルギー導入率（kW）	26,364kW （令和2年度）	28,931kW	31,301kW	41,475kW （令和12年度）
区内のエネルギー消費量（TJ） （平成25年度からの削減率）	15,240TJ 11% （平成30年度）	14,557TJ 15.0% （令和2年度）	14,402TJ 15.9% （令和3年度）	11,993TJ以下 30%以上 （令和12年度）

※区内乗用車のZEVの割合の指標は、算定で使用する値の一部が未公表のため記載を省略。

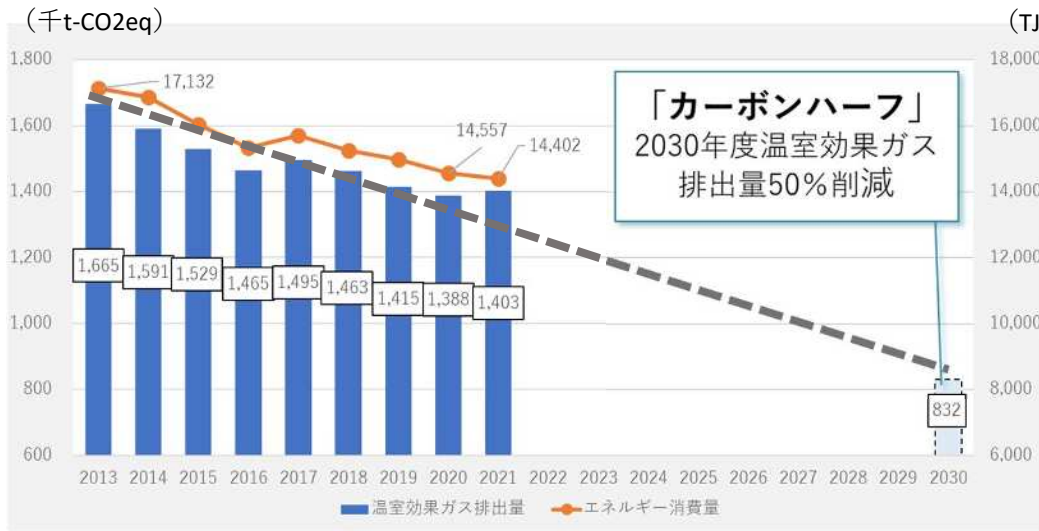
施 策 の 目 標

指標	目標設定時の値	令和4年度	令和5年度	目標値
基本施策5 脱炭素に向けたライフスタイルの推進				
家庭部門の温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ ） （平成25年度からの削減率）	554千t-CO ₂ 14.3% （平成30年度）	553千t-CO ₂ 14.3% （令和2年度）	569千t-CO ₂ 11.9% （令和3年度）	323千t-CO ₂ 以下 50%以上 （令和12年度）
業務部門の温室効果ガス排出量（千t-CO ₂ ） （平成25年度からの削減率）	325千t-CO ₂ 13.3% （平成30年度）	296千t-CO ₂ 21.0% （令和2年度）	288千t-CO ₂ 23.2% （令和3年度）	187千t-CO ₂ 50%以上 （令和12年度）
区の事務事業による温室効果ガス 排出量（千t-CO ₂ ） （平成25年度からの削減率）	23,403千t-CO ₂ 26.3% （令和2年度）	23,654千t-CO ₂ 25.5%	23,679千t-CO ₂ 25.4%	15,877千t-CO ₂ 51% （令和12年度）
基本施策6 気候変動適応策の強化				
区内の熱中症搬送者数（人）※1	223人 （令和2年度）	178人	293人	200人以下を 維持 （令和13年度）
気候変動適応策を知っている 区民の割合（%）※2	25.8% （令和2年度）	35.3%	35.5%	50% （令和13年度）
区の防災対策が進んできていると思う 区民の割合（%）※2	38.5% （令和2年度）	35.7%	34.0%	50% （令和12年度）

※1 救急活動の現況（東京都消防庁）

※2 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書

葛飾区における温室効果ガス排出量の現況について



- (TJ) ▶ **現況**
- 令和3（2021）年度における葛飾区の温室効果ガス排出量は、前年度比で1.1%増加しました。
 - 日本全体においても、前年度比で1.8%増加しました。
- ▶ **考察**
- 令和3（2021）年度の増加要因は、厳冬やコロナ禍など一過性の影響が主な理由です。
 - また、日本全体における令和4（2022）年度の最新実績は過去最低値を記録しています。
 - 葛飾区においても、令和4年度以降は再び減少に転じるものと考えられます。

単位：千t-CO2

項目/年度	基準年度 平成 25年度 (2013)	令和 2年度 (2020)	最新年度 令和 3年度 (2021)	目標年度 令和 12年度 (2030)
温室効果ガス 排出量 (千t- CO2eq) (基準年度比)	1,665	1,388 (▲16.6%)	1,403 (▲15.7%)	832 (▲50%)
エネルギー消費 量 (TJ) (基準年度比)	17,132	14,557 (▲15.0%)	14,402 (▲15.9%)	11,993 (▲30%)

部門/年度	基準年度 平成 25年度 (2013)	令和 2年度 (2020)	最新年度 令和 3年度 (2021)	目標年度 令和 12年度 (2030)
産業	173	117	119	90
家庭	646	553	569	310
業務	375	296	288	186
運輸	350	249	254	149
廃棄物	52	60	59	33

令和5年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 再生可能エネルギーへの利用転換の拡大 (1) 太陽光発電システム及び蓄電池の設置助成 再生可能エネルギーの利用拡大を図るため、家庭向け・事業者向けそれぞれで設置費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 令和4年2月のウクライナ侵攻の影響によるエネルギー価格の高騰を背景に、太陽光発電システムや蓄電池の助成件数が令和5年度に大幅に増加しました。このことから、本助成は再生可能エネルギーの利用拡大に寄与していると評価しています。引き続き助成金等を通して、区内の再エネ導入を推進していきます。
太陽光発電システム（件）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	180	276	379	
事業者向け	4	7	4	
合計（件数）	184	283	383 (+100)	
合計出力数（kW）	764.6	1267.1	1696.3	
本事業で導入した太陽光発電システムの累計年間発電量（kW）		15,365.7		
<p>令和5年度の年間発電量・・・480世帯に相当 累計年間発電量・・・4,352世帯に相当 ※令和4年度の関東甲信地方の1世帯当たりの年間電気消費量3,531kWh（環境省「令和4年度 家庭部門のCO2排出実態統計調査 資料編（確報値）」）を用いた推計</p>				
蓄電池（件）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	215	337	547	
事業者向け	3	6	3	
合計	218	343	550 (+207)	
HEMS（件）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	125	154	192 (+38)	

令和5年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>(2) 区施設への太陽光発電システム及び蓄電池の導入 令和5年度に子ども未来プラザ東四つ木、葛飾区児童相談所に太陽光発電システム及び蓄電池を設置しました。</p> <p>【設置容量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 子ども未来プラザ東四つ木 太陽光発電容量：5.2kW 蓄電池容量：11.2kWh ➤ 葛飾区児童相談所 太陽光発電容量：6.7kW 蓄電池容量：11.2kWh 	<ul style="list-style-type: none"> • 区有施設への太陽光発電システム及び蓄電池の設置については、新築や改築にあわせて着実に設置を進めています。令和6年度についても、3施設への設置を予定しています（1施設は既に設置済み）。 • 今後は、更なる設置拡大を図るため、既存施設への設置も同時に進めていきます。
<p>(3) 区施設の再生可能エネルギー電力（RE100）への切替え 令和4年度に引き続き本庁舎及びスポーツ施設において、再エネ100%の電力をリバースオークションサービスを利用して導入しました。</p> <p>【再生可能エネルギー電力導入施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本庁舎指定管理者が管理するスポーツ施設 （葛飾区奥戸総合スポーツセンター、葛飾区水元総合スポーツセンター、葛飾区東金町運動場、葛飾区小菅西公園フットサル場、葛飾区上千葉公園運動場、葛飾区葛飾にいじゅくみらい公園運動場、葛飾区金町公園プール） 	<ul style="list-style-type: none"> • 設置に当たっては、国や都の補助金を活用し、財政負担を軽減しつつ、取り組んでいきます。 • 再生可能エネルギー100%電力への切替えについても順次進めていく方針で、令和7年度は新清掃事務所の電力を再エネ100%に切り替える予定です。 • また、切替えに当たってはリバースオークションサービスを利用することで、調達価格の抑制に努めていきます。

※リバースオークションサービス：小売電気事業者が他社の入札価格が見える状態で、一定期間何度でも再入札が可能
なせり下げ方式のオークションで、再エネ電力を簡単に、そして調達価格の抑制が
期待できる無料サービス

令和5年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 住宅など建築物のエネルギーの高効率化、家庭・事業所における省エネ機器等の導入促進</p> <p>(1) 高反射率塗装・断熱改修などに対する助成 エネルギーの高効率化及び省エネ機器の導入促進を図るため、家庭向け・事業向けそれぞれで導入費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 従来の遮熱塗装等断熱改修としていた助成について、令和5年度より「高反射率塗装」と「断熱改修」のそれぞれの項目で助成を行うよう、メニューを見直しました。 エネルギーの高効率化に向けて、引き続き高反射率塗装・断熱改修等の助成金により、区内の省エネ化を後押ししていきます。 家庭向けのLED照明機器の助成については過去10年間にわたって助成を実施したことにより、区内に一定数普及したことをもって、令和5年度をもって終了しました。 事業者向けのLED照明機器の助成については、令和6年度からリース契約による導入を助成対象に加え、より利用しやすい助成内容になるよう見直しを行いました。 事業者における照明のLED化は、高額な初期費用が障壁となっていることから、普及が進んでいない状況を踏まえ、引き続き導入を促進していきます。
高反射率塗装・断熱改修（件）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	511	575	459	
事業者向け	15	8	8	
合計（件数）	526	583	467 (-116)	
LED照明機器（件）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	68	71	50	
事業者向け	48	25	45	
合計	116	96	95 (-1)	

令和5年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 住宅など建築物のエネルギーの高効率化、家庭・事業所における省エネ機器等の導入促進</p> <p>(1) 高反射率塗装・断熱改修などに対する助成 エネルギーの高効率化・省エネ機器の導入促進を図るため、家庭向け・事業向けそれぞれで導入費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 従来ZEH（ゼロエネルギーハウス）及び東京ゼロエミ住宅への助成は、令和5年度に新設の高断熱住宅への助成に統合しました。近年、住宅業界において注目を集める断熱性能に着目した区独自の助成制度を設けたことで、より利用しやすい助成内容に更新しました。 令和5年度より、事業者向けの換気設備機器の助成金を新設しました。換気設備機器に対する助成は、令和5年度における実績は0件となっていますが、令和6年8月末時点では、3件の実績があります。助成の対象である熱交換型換気設備は、外気から取り入れた空気を室内の温度や湿度に近づけて換気を行えることから、換気の確保とCO2の排出抑制に寄与していると評価しています。 今後も区民が助成金を利用しやすいよう、助成内容の見直しや手続きの簡潔化を検討していきます。 今後、建替え等を行う施設については引き続きZEB Ready以上の認証を目指し、ZEBの標準化を進めます。既存施設についても断熱改修などを通して、可能な限り省エネ性能を高める取組を行っていきます。
高断熱住宅 (ゼロエネルギーハウス (ZEH)) (件)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	3	1	88 (+87)	
エネファーム (件)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	66	28	37 (+9)	
空調機器改修 (件)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業者向け	39	29	52 (+23)	
換気設備機器 (件)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
事業者向け	—	—	0 (±0)	
<p>(2) 区施設のZEB化（ゼロ・エネルギー・ビルディング） 令和9年度の新校舎開設に向けて改築中の宝木塚小学校において、令和6年3月に葛飾区の区立小学校で初のZEB Ready認証を取得しました。</p>				

※ZEB：高断熱・高効率化によって大幅な省エネを実現したものや、さらに太陽光発電等によってエネルギーを創り、(ZEH) 年間に消費するエネルギー量が大幅に削減されている建築物

令和5年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 次世代自動車（ZEV）の普及促進 (1) 次世代自動車等に対する助成 次世代自動車の普及を促進するため、電気自動車や燃料電池自動車など環境にやさしい自動車を導入する際の費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 電気自動車の助成件数が令和4年度及び5年度に大幅に増加したことから、本助成は区内の電気自動車の普及に寄与していると評価しています。 今後、国の自動車分野のGX（グリーントランスフォーメーション）実現に向けた動向を注視しつつ、引き続き電気自動車の普及を推進していきます。 V2H充放電設備は電気自動車等を「動く蓄電池」としての運用を可能にするため、ZEVの普及促進に寄与するものであると評価しています。
電気自動車（件）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	10	119	328	
事業者向け	4	6	53	
合計（件数）	14	125	381 (+256)	
<p>◆ V2H充放電設備の導入促進 (1) V2H充放電設備に対する助成 災害時のレジリエンスの向上やZEVの普及を促進するため、V2H充放電設備に対する助成を令和5年度から開始しました。</p>				
V2H（件）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	—	—	8	
事業者向け	—	—	0	
合計（件数）	—	—	8 (±0)	

令和5年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆宅配ボックスの導入促進</p> <p>(1) 宅配ボックスに対する助成 再配達によって発生する配達用自動車からのCO2排出量を削減するため、宅配ボックスを導入する際の費用の一部を助成しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> • 宅配ボックスに対する助成は、令和6年1月から開始したため、令和5年度における実績は0件となっていますが、令和6年8月末時点では、25件の実績があります。 • 宅配ボックスの設置により再配達を削減し、配達用自動車のCO2排出量削減に寄与していると評価できることから、今後も区内の宅配ボックスの導入を促進していきます。 • 施策の目標のうち、基本施策6「気候変動適応策を知っている区民の割合」は4割を切っており、目標達成には周知啓発をより一層推進する必要があります。引き続き「緑のカーテン」事業をはじめ、様々な機会で気候変動適応策の普及・啓発を図っていきます。 • 令和6年度は区内公共施設62施設をクーリングシェルターに指定しました。今後、クーリングシェルターの拡充（民間事業所の新規指定・募集等）に向けて検討していきます。
宅配ボックス（件）	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
家庭向け	—	—	0	
事業者向け	—	—	0	
合計（件数）	—	—	0	
<p>◆暑さに対する適応</p> <p>(1) 緑のカーテン事業 夏の暑さを和らげる効果のある「緑のカーテン」の普及啓発を図るため、区民向けに講習会を5会場で実施し、気候変動への適応の必要性を普及啓発しました。</p> <p>(2) 指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）の指定 気候変動適応法の改正に伴い、熱中症の発生防止を目的として区内の施設をクーリングシェルターに指定できることとされました。これを受け、令和6年4月の改正法施行に向けてクーリングシェルターの指定について検討を開始しました。</p>				

基本目標3

資源循環型地域社会の形成

- 基本施策7 ごみの発生抑制・再使用の推進
- 基本施策8 多様な資源循環の推進
- 基本施策9 適正なごみ処理の推進

施策の目標

指標	目標設定時の値	令和4年度	令和5年度	目標値
基本施策7 ごみの発生抑制・再使用の推進				
区民一人一日当たりの 家庭ごみ量 (g)	495g (令和元年度)	472g	449g	425g (令和12年度)
事業系ごみ 年間総排出量 (t)	23,856t (令和元年度)	23,270t	22,781t	23,805t (令和12年度)
基本施策8 多様な資源循環の推進				
資源回収率 (%)	22.1% (令和元年度)	23.5%	23.6%	27% (令和12年度)

令和5年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
◆ 家庭から出るごみの発生抑制・再使用の推進				<ul style="list-style-type: none"> 区民一人当たりの家庭ごみ量は、令和2年度にコロナ禍の影響により一時増加したものの、その後はかつしかルール of 推進によるごみ発生抑制の取組により、減少を続けています。事業系ごみについては目標値に達していますが、物価など社会的な要因によって排出量の増減に影響が出やすいため、引き続き目標値を維持できるよう、事業者向けの環境学習など啓発に取り組んでいきます。 令和5年度は、引き続き環境学習やイベント等、様々な機会を捉えて啓発を行いました。今後も家庭から出るごみの発生抑制・再使用の推進について積極的に啓発を実施していきます。
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
環境学習の実施（回）	78	101	112	
イベントにおける区民参加型普及啓発回数（回）	2	11	8	
生ごみ処理機、コンポスト化容器の購入費助（件）	136	102	185	
フードドライブの実施（件）	11	18	16	
不用品交換情報の発信（情報登録件数：件）	75	138	124	
◆ 事業所から出るごみの発生抑制・再使用の推進				
かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会を通じた事業者への啓発	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
啓発グッズ・啓発チラシ・容器包装削減ポスター配布数（件）	20,124	22,262	20,857	

令和5年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
◆ 家庭から出る資源の循環、ごみの適正排出に向けた取組				<ul style="list-style-type: none"> 「ごみ性状調査」によると、燃やすごみ、燃やさないごみの中には、依然として資源が混入している状況です。区は資源とごみの収集カレンダーなどを通じて資源の適正排出の周知に努めるとともに、適正排出の向上に向けて環境学習等事業を実施していきます。 今まで「燃やすごみ」としていた製品プラスチックについて、令和7年度からは「資源」として回収し、再生利用します。資源の日に回収する品目が新たに増えることについて、今後周知や啓発活動を積極的に実施していきます。 令和3年度より、燃やさないごみから金属類や小型家電などの資源化を開始し、令和4年度には資源化品目を8品目に増やしました。令和5年度は更に2品目を追加し、粗大ごみからも金属類などの資源化を開始したことで、資源回収率は前年度に比べて上昇しました。今後も、令和12年度の目標達成に向けて資源循環型社会形成のための施策を実施していきます。
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
プラスチック容器包装の適正排出の啓発（資源とごみの収集カレンダーの印刷作成部数：件）	268,470	274,000	281,400	
不法投棄防止対策（不法投棄防止看板の配布数：枚）	16	105	37	
（3）ボトルtoボトルの推進 <ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人全国清涼飲料連合会と協働し、区民や事業者へボトルtoボトルによる水平リサイクルについて啓発を行いました。 小学生を対象としたプラスチックに関する環境学習を実施しました。 プラスチックの代替素材の利用拡大やプラスチックの使用削減に向け、イベント等でバイオマス素材などの活用を促進する啓発活動を行いました。 				
（4）資源化の拡大 令和5年度は新たに次のものを資源化しました。 燃やさないごみから・・・飲食用びん、乾電池 粗大ごみから・・・金属類、衣装ケース等プラスチック製品				
◆ 効率的・効果的な清掃事業の推進				
地域の実情に即した収集サービス	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
高齢者世帯等への訪問収集世帯数（世帯）	542	550	579	
まちの美観向上を目的とした個別収集（件）	2,787	2,681	2,649	

基本目標4

多様な生き物との共生

基本施策10 生物多様性の保全
基本施策11 水と緑の空間の創出

施策の目標

指標	目標設定時の値	令和4年度	令和5年度	目標値
基本施策10 生物多様性の保全				
自然を大切にしている行動をしている区民の割合(%) ※1	72.3% (令和2年度)	71.1%	72.7%	86.0% (令和13年度)
自然環境学習に参加する区民の数(人)	1,109人 (令和元年度)	1,045人	1,310人	1,230人 (令和13年度)
基本施策11 水と緑の空間の創出				
緑被率(%) ※2	18.3% (平成30年度)	—	—	20.0% (令和10年度)
水辺が親しめる空間となっていると思う区民の割合(%) ※3	59.7% (令和2年度)	59.9%	58.3%	66.4% (令和13年度)
緑と花の豊かさを感じる区民の割合(%) ※3	65.5% (令和2年度)	66.9%	68.7%	70.3% (令和13年度)
区民一人当たりの公園面積(m ²) ※4	4.36m ² (令和2年度)	4.39m ²	4.37m ²	4.46m ² (令和12年度)

- ※1 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書
 ※2 「葛飾区緑被率・みどり率調査」調査報告書(10年に1度実施)
 ※3 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書
 ※4 葛飾区基本計画に拠る(計画期間:令和3年度~令和12年度)

令和5年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 貴重な自然環境の保全・再生</p> <p>(1) 大場川中州清掃作業の実施 中州を上流部分から3分の1ずつに分け、毎年度清掃作業を実施しています。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 自然保護区である大場川中州及び水元さくら提の保全を行っています。大場川中州の廃棄物については、ここ数年、若干の増減はあるものの概ね横ばいの数値となっています。令和5年度は、例年数量が大きい上流部分にて作業を行ったため、一般廃棄物の処理量が増加しました。引き続き適切な保全を行っていきます。 捕獲数、捕獲率は、年度によって若干増減があるが罠設置件数は増加傾向にあるため、区内に生息するアライグマ・ハクビシンが増えていると考えられます。今後の推移を注視しながら、継続して箱罠を設置してアライグマ、ハクビシンの捕獲に努めていきます。
【廃棄物処理実績】	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
一般廃棄物 (kg)	2,340	2,510	6,160	
産業廃棄物 (kg)	40	195	60	
合計 (kg)	2,380	2,705	6,220	
<p>(2) 水元さくら提除草作業の実施 毎年度4、5、7、9月に除草作業を、12月にフジバカマの切り戻し作業を実施しています。</p>				
<p>◆ 在来種の保護</p> <p>アライグマ（特定外来生物）、ハクビシン（外来生物法による指定なし）から在来種を守るため、区では個人宅を対象に捕獲用箱罠を設置しています。</p>				
【箱罠設置件数・アライグマ、ハクビシン捕獲数・捕獲率】	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
箱罠設置件数	95件	134件	130件	
捕獲数	34頭	54頭	39頭	
捕獲率	36%	40%	30%	

令和5年度の主な取組結果				評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 生物多様性に関する情報収集・普及啓発 (1) 外来種に関する情報発信 本区の環境を保全するために対応が必要な外来種（アメリカオニアザミやクビアカツヤカミキリ等）について広報かつしかや区ホームページで注意喚起を実施しました。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 環境教育の一環として、児童が総合的に学び、環境行動を実践できるよう「葛飾区環境学習用教材～エコかつ～」を作成し、区立小・中学校に配布しています。今後も授業の補助教材として活用するほか、自主学習ツールとしても活用いただき、環境教育を推進していきます。なお、今後は教育のデジタル化に対応したものとしていきます。 条例に基づく令和5年度の緑化指導の確認は101件、54,599㎡となりました。今後も適切な指導を行っていきます。
<p>◆ 自然環境を守り、育てる担い手の育成 (1) 環境学習用教材「エコかつ」の活用 「葛飾区環境学習用教材～エコかつ～」を作成し、全ての区立小・中学校に配布しました。</p>				
<p>◆ 緑と花のまちづくりの推進 (1) 緑化指導 身近な緑を増やし、快適で良好な生活環境を実現するため、一定規模以上の敷地面積に建築などを行う区民及び事業者に、緑化計画の届け出を義務付け、新たな緑の創出を図りました。</p>				
【緑化指導実績】	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
確認件数（件）	100	102	101	
確認面積（㎡）	16,895	32,381	54,599	
<p>(2) 「フラワーメリーゴーランド」導入の推進 公共空間への新たな花の展開手法を発信することによりフラワーメリーゴーランドなどの導入が進みました。 【導入場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 横須賀市立長井海の手公園 2基（フラワードレス） （設置主体は公園指定管理者） 花と光のムーブメントin芝公園 期間：10/19～11/19 （フラワーメリーゴーランド20基・フラワードーム30基 ・フラワーキャンバス4セット他） 				

基本目標5

誰もが健康で快適に暮らし続けられるまち

基本施策12 きれいな水と空気に囲まれた生活環境づくり
 基本施策13 快適できれいなまちづくり
 基本施策14 化学物質等の適正管理

施策の目標

指標	目標設定時の値	令和4年度	令和5年度	目標値
基本施策12 きれいな水と空気に囲まれた生活環境づくり				
大気（NO ₂ ・SPM）の環境基準値達成状況 （測定4局）※1	達成 （令和2年度）	達成	達成	維持 （令和13年度）
大気（O _x ）の環境基準値達成状況 （測定1局：水元）※2	未達成 （令和2年度）	未達成	未達成	達成 （令和13年度）
河川水質（BOD）の環境基準値達成率（%） ※3	100% （令和2年度）	100%	100%	維持 （令和13年度）
基本施策13 快適できれいなまちづくり				
生活環境に関する苦情件数（件）※4	483件 （令和2年度）	262件	285件	173件 （令和13年度）
区内がごみのない、きれいで清潔なまちになっていると思う区民の割合（%）※5	47.3% （令和2年度）	53.5%	53.6%	60% （令和12年度）

※1 NO_x（二酸化窒素）、SPM（浮遊粒子状物質）

※2 O_x（光化学オキシダント）

※3 3河川（江戸川・新中川・綾瀬川）の調査地点3か所における環境基準値適合検体数／総測定検体数（%）

※4 目標値は2019（令和元）年度の苦情件数（259件）を基準として設定

※5 「葛飾区政策・施策マーケティング調査」調査報告書

令和5年度の主な取組結果	評価（課題及び今後の方向性）
<p>◆ 河川、池、水路の水質向上対策の推進 (1) 河川水質調査の実施状況 区内の河川の水質を監視するため、江戸川、新中川、綾瀬川の3か所にて水質調査を継続して実施しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度において、水質は全ての河川で環境基準を達成しています。引き続き適切な管理を行っていきます。
<p>◆ 大気汚染などの防止の推進 (1) 大気汚染常時監視の実施状況 区内の大気環境について、汚染状況や経年変化を把握するため、4か所に測定局を設置し、常時監視を実施しています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度において、大気は光化学オキシダントを除き、環境基準を達成しています。引き続き適切な管理を行っていくとともに、光化学オキシダントについては、ホームページやリーフレットなどにより普及・啓発を継続していきます。
<p>◆ 騒音、振動、悪臭などの防止の推進 (1) 工場等苦情処理 工場や指定作業場などから発する騒音・悪臭・振動についての苦情・相談に迅速に対応し、生活環境の保全に努めています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境に関する苦情については、引き続きお互いに配慮することの重要性を啓発していくほか、区民の生活習慣の変化に柔軟に対応していきます。